

教育理念・目標	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
---------	---

重点目標	①命と人権を重視し、保護者とも連携して生徒と真摯に向き合いながら生徒の成長をサポートする。 ②生徒の状況を全体で組織的に把握し、生徒を中心に据えた活動が展開できるように努める。 ③働き方の改善を進め、教員が精神的ゆとりをもちながら、質の高い教育活動かつ持続可能な環境を実現させていく。 ④チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ⑤各分掌が原案を作成することを基本とする。個々人が全体状況を見据え、主体性を持って学校運営に携わり民主的な学校運営を目指す。
------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価			学校関係者評価 実施日2025年11月15日 学校関係者からの 要望、評価等
		年度目標		年度評価	
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学憲章を学ぶための付属校生むけ教材『学びのつながり』をHRで活用したい。			付属校生である自分の立場、これから可能性などを生徒自らが考えられる教材であると思うので、より活用していただきたいと思います。
2	組織運営	<p>1. 生徒・保護者の信頼を得て、より教育的な指導をめざす ・「いのちの日」に追悼の集いを行なった。クラブ事故を風化させることなく教訓とし、ご家族の意向を尊重し引き続き取り組みたい。また、熱中症予防やクラブ事故などに関する研修を継続的に実施し、「生徒の命を守る」ことのできる体制を強化していきたい。</p> <p>2. コンプライアンス 【7月教研】7月22日(月) ①「生徒との関わりのマインドセットを考え教育観を磨く」講師:川上康則先生 → 教員、生徒にとって心理的安全性をどのように保ちながら教育活動を行っていくかを考えるきっかけとなった ②「部活動について」(顧問配置、外部委託の現状報告等) 部活動外部委託の取り組み現状紹介、廃部規程について、部の新設について 5年後構想委員会より、副顧問配置について、部活動ガイドラインの運用について → 現在の本校の抱える部活動の課題を整理、共有した また5年後構想委員会からの報告と意見集約もあり、将来的な展望についても協議の きっかけとなるものだった 【12月教研】12月23日(月) ①総合的な探究の時間の取り組みについて 教務部総合探究 高2総合探究の振り返り、高3総合探究の振り返り、2025年度高3総合探究に関する提案について → 探究活動については担当学年でないと実施している内容を把握できないので、まず実践内容の共有を行い、現在の到達点と課題を整理した。修正提案の基礎討議につながった。 ②ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンセンター(DEIセンター)の取り組み DEIセンター 市川さやか 様 【三付属教研(会場:法政国際高)】8月29日(木) 第一部『「包括的性教育」とは~人権教育としての包括的性教育』 講師:人間と性"教育研究協議会(性教協)代表幹事 水野哲夫氏 第二部 分散討論・意見交換</p> <p>3. 持続可能な運営 ・5年後構想委員会の最終答申が示された。今後、委員会の趣旨を引継ぎつつ、教職員間での合意形成を行い、よりよい学校づくりに向けて取り組んでいきたい。 ・部活動や行事など、生徒の活動を保障する必要性とともに、教員の働き方も考慮した、持続可能な形に変更していく必要に迫られている。関係部署と協議を重ね、教員会議での合意を経て見直していきたい。</p> <p>4. 組織検討 ・継続的に分掌組織の見直しを図っている。依然として分掌間での業務量の偏りや時期による労働時間過多がみられる。業務の分担や人員配置のバランスの見直しも含め、改善</p>	<p>1. 生徒たちが校風を身体いっぱいに感じられるような学校生活・教育的指導を継続して目指し、導いていただきますよう願います。</p> <p>2. 先生方も様々な研修、話し合いを行い、常により良い教育について考えをブラッシュアップされておられる事がわかりました。モノ・情報があふれる世の中で、古きにとらわれず新しい考え方・意見を受け止めることは、生徒たちの手本となると思います。</p> <p>3. 毎年様々な生徒が入学・卒業し、時代は移りゆくものです。学校にも時代に即した運営を行っていただくとともに、長期的な計画を持って持続可能な運営を行っていただくことを願います。</p> <p>4. 分掌組織間の業務量の偏り、時間の拘束の偏りはどのような組織でも問題になります。継続してきた業務にも不要な手順があるなど、業務の洗い出しと仕分けを行い、スリム化を図ることで先生方の負担を減らしていただければと思います。</p>		

	<p>をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に、教務の分掌組織改編を行った。総合探究やICT教育・学習設計に分け、力を入れていくべき分野の中長期的課題に取り組む組織とした。継続的に、本校の教育理念を実現し、社会に資する人間の育成のための学習プログラムの実施に向けて取り組んでいきたい。 ・部活動における課外指導員やコーチの活用などが進んでいる。しかし予算面との折り合いをつけるのが難しいことや、そのほかクリアすべき課題も多い。 ・業務精選 <p>【最重要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> *生徒指導や安全講習、その他、幅広い分野の教員研修の実施 *カリキュラムや部活動に関する教員間での合意形成に向けた話し合い *業務精選 	
3	<p>教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</p> <p>①教務分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度からICT支援員をおき、修理対応やその他のICT関連業務を担うこととなった。 ・マルチ教室のリプレイスをほぼ現状の設備内容で行った。生徒全員がタブレットを所有しているため、今後は同規模のリプレイスは行わない。中長期的な視点にたって教室利用法を含むICT環境の見直しを行う必要がある。 <p>②教務分野分掌組織改編</p> <p>教務部内に新たに設置された「学習設計」「ICT教育」「総合探究」であるが、総合探究ではほぼ想定していた通りの成果をあげられた一方で、学習設計では道徳と図書も兼ねたことにより、課題を洗い出し整理するにとどまった。ICT教育では、複数の部署との連携も必要となる業務も多く、情報活用に関する指導計画の成案を見るまでには至らなかった。</p> <p>来年度以降、業務の精選、役割分担の見直しをさらに進め、必要に応じて減免時間の再検討も行い、改編の成果をさらに高めていきたい。</p> <p>③高大連携の取り組み</p> <p>総長杯英語プレゼンテーション大会の参加者選考では、大学との連絡がうまくいかず出場資格を得られない生徒が出てしまった。そのほか、付属校生を対象とした多摩キャンパス体験学習プログラムや、ワンデーサイエンスカレッジの取り組みを学内で周知することができていなかった。まずは既存の高大連携プログラムを十分に活用していくことを徹底していきたい。</p> <p>④合理的な配慮を必要とする生徒支援</p> <p>保健室、カウンセリングルームの尽力で、登校・支援学習室の開設に向けて動いている。開設後にも継続的に取り組みの見直しを行い、インクルーシブ教育への環境整備に努めていきたい。</p> <p>⑤総合的な探究の時間</p> <p>総合探究の担当者を中心に運用にあたった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高2の「総合的な探究の時間」では、沖縄修学旅行と高3の総合的な探究の時間との接続を意識しながら運用に当たった。今後も継続して検討していく必要があるが、Inspire Highの利用では一定の成果も見られた。 ・高3の「総合的な探究の時間」は、今年度の取り組みを受け、来年度はユニットの運用に変更を加えていく。来年度も、議論を継続し、持続可能かつ生徒にとって充実した探究活動を模索していきたい。 <p>⑥Google Classroomの運用</p> <p>Google Classroomの科目ごとの設定方法、生徒の招待方法や資料提示の方法などをマニュアル化し、まずはGoogle Classroomを立ち上げ、授業で利用できる状態を設定していくことに1学期は重点を置いた。夏休み以降は、どのようにGoogle Classroomを授業で利用していくか、教務部主催の交流会や研修会で相互に学びあう機会を持った。また、採点ナビと紐づけてオンラインで答案を返却する方法もマニュアル化し、希望者を対象に取り組みを開始した。来年度は、さらなる活用を目指し議論を継続していきたい。</p> <p>⑦授業公開と教員間の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に授業を開いたり、Canvaを利用した授業を公開したりしたほか、教務部主催で研修会や交流会を持ち、ICTを用いた授業を中心に交流の機会を持つことができた。 <p>⑧海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 <p>カナダの大学寮に世界各国からの同世代の留学生と寮生活を行いながら、現地の留学プログラムに参加する形で研修を実施した。安全面や施設面での問題は特にみられず、同世代の留学生と交流する機会を持つことができ、参加者からはおおむね高い評価を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学 <p>当初予定の夏実施はかなわなかったが、オーストラリアにてホームステイ形式で3月実施にこぎつけることができた。コロナ禍以降、ホームステイ受け入れ体制も大きな変化があり、</p>	<p>1.</p> <p>①・②</p> <p>情報通信技術(ICT)の教育への活用は現代において必須となっており、学校側の準備は大変なものと察します。設備・人的アップデートもありますが、生徒一人ひとりへの指導を考えると、分掌組織として負担が大きくなるかと思います。ICT支援員の増員や外部機関への委託なども検討いただき、生徒たちが個々の端末でも問題なく使い勉強できるような体制を整えていただきたいと願います。</p> <p>③</p> <p>付属校ですので、大学との連携をさらに密にしていただき、生徒が付属校生であるメリットを感じられるよう基礎作りを願います。</p> <p>④</p> <p>様々な理由により通常登校が難しい生徒への配慮を考えいただけていると感じています。</p> <p>⑤</p> <p>キーワードごとのグループに分かれ、グループ学習するのですが、何をすればよいのか、何を目指せばよいのか分からぬ生徒もいたようです。授業の目的・目標を提示してそこへ向かえるよう、引き続き指導を願います。</p> <p>⑥</p> <p>すべての生徒がそれぞれの端末からGoogle Classroomを支障なく使えるよう、より良い運用方法を引き続き検討願います。</p> <p>⑦</p> <p>教員の方々の学び合いを通して、よりよい学校運営を目指してくださっていると理解しました。</p> <p>⑧</p> <p>コロナ禍で中学校の海外研修が一時無くなりましたでしたが、希望者対象でホームステイが実施できたとのこと、待っていた家庭もあったことと思います。先生方の負担が大きい行事の一つかと思いますが、生徒たちに取って良い経験となるイベントですので、継続いただくことを願います。</p>

	<p>受け入れ先の確保が困難になってきている。また希望者が多かった場合の選考基準について、事前の周知が不十分であったことで混乱を招いた。次年度の課題としたい。</p> <p>2. 生活指導</p> <p>①登校時の混雑改善策</p> <p>より効果的な混雑緩和の対応策として、中高での時差登校導入と朝のHRを廃止した。想定よりも大きな効果が見られ、近隣からの登校時に関する苦情は大幅に減った。しかし授業開始直前に駆け込む生徒が見られるなど、課題は多い。落ち着いた授業環境をつくるためにも、生徒の意識を高める注意喚起を継続して行いたい。一方、マナーに関する苦情は20件程寄せられている。今年度もシルバー人材の交通指導員に指導をお願いしているが、歩きスマホや自転車走行については、引き続き、生徒への声かけを行っていきたい。</p> <p>②性教育を含めた人権教育の充実・SNS利用に関する安全教育</p> <p>各学年で生徒向けの講座を実施し、PTAでは保護者への注意喚起を行った。それにもかかわらず、SNSを介して人権侵害と認定される事案が発生した。生徒が問題に巻き込まれないためにも、現状に即したネットリテラシー教育は不可欠である。来年度以降は中学1年から高校3年までを体系化できるよう、組織的な再構築を目指したい。</p> <p>③学校生活に関するアンケート調査</p> <p>各学期に1回、また休暇や行事後に「学校生活に関するアンケート調査」を行った。それによって生徒間の問題を早期に発見し、対応することができた。事後にはいじめ防止・対策委員会を開き、情報の共有、生徒対応についての意見交換を行った。</p> <p>④スマートフォンのルール改定後の振り返り</p> <p>昨年度のルール改定とその後の運用状況について振り返りを行い、今年度の三者協議会でも報告がなされた。カメラ機能の許可の可否に関しては継続的な検討が必要である。また、ルールを改定したことによって、どのような問題が生じたのかも含めて課題を議論し、よりよいスマホルールの策定を進めていきたい。</p> <p>⑤中学夏季制服の改定・生徒会則の改定</p> <p>中学夏季制服に従来のプルオーバーに加えてポロシャツが導入された。生徒会則の改定には生徒総会での承認が必要であるため、生徒の総意が得られるよう早めの準備が必要である。</p> <p>⑥クラブの再編成・生徒会則の改定</p> <p>クラブの再編成については、次年度以降、持続可能な活動ができるような組織再編に向けて、教員間で共通理解を持つとともに、具体的な道筋を作っていく。</p> <p>生徒会則の改定については、検討を始めたものの、規則が古く現実に即していないこともあり、具体的な着手には至らなかった。改定にあたっては、生徒総会での承認が必要となるため、生徒の総意が得られるよう早めの準備を行いたい。</p> <p>⑦クラブ活動方針(ガイドライン)</p> <p>法人が付属校に向けて策定したガイドラインを受け、本校の活動方針(ガイドライン)を策定した。今年度のクラブ活動についてアンケートを実施する等の振り返りを行い、次年度以降、必要に応じた修正を行いつつ、安全で安心できるクラブ活動を目指したい。</p>	<p>2.</p> <p>① 登下校時のマナーについて、学校からの指導だけでなく生徒会が中心になるなどして、生徒自身にも考える機会をつくる必要があると感じます。地域の方々に愛され応援される学校であってほしいと願っています。</p> <p>② SNSの利用、人権についての考え方、学校だけでなく家庭での話し合いも非常に大切と認識しています。保護者会での保護者同士の話し合いや学校・PTAで講習会を開くなど検討していく必要があるように思います。</p> <p>③ アンケートを適宜行うのは、意見の集約に有効です。引き続き実施いただき、問題改善などに活用いただきたいです。</p> <p>④・⑤ 生徒会が活発に活動しているようで感心しています。今後も、より良い学校生活を送るために改善すること・新しく必要なことなどを議論し、まとめていくことを期待します。</p> <p>⑥・⑦ 生徒たちが楽しく一生懸命に活動できるような部活動作りを引き続き願います。</p>
4	<p>安全・健康管理 (保健、安全、防災、施設等)</p> <p>1. 保健</p> <p>①定期健康診断</p> <p>・昨年に引き続き、性の多様性に配慮し、男女分けをせず実施した。プライバシーに配慮して実施しているため、特に混乱などではなく、スムーズに終えることができた。</p> <p>・必要に応じた生徒への受診勧告、成長曲線の配布・体重減少が気になる生徒への注意喚起を行った。</p> <p>・中高1年生の希望者を対象とした色覚検査を実施した。</p> <p>②カウンセリング</p> <p>対面・Zoom・電話で面談を実施し、関係諸機関と連携して対応を行った。</p> <p>③応急処置・病院搬送</p> <p>・病院搬送件数は4件(脱臼1件、内科3件)で、内、2件(けいれん)は救急車を要請した。</p> <p>④骨密度検査:学校医と協力し、全校生徒の希望者を対象に骨密度検査を行った。</p> <p>2. 防災</p> <p>安全・環境・防災防災訓練の内容検討、防災備品の整理等、前進した取り組みもあるが、防災計画・マニュアルのバージョンアップや周知が急がれる。集中して取り組むための人的・時間的条件を確保し、中長期的視野で法人と連携して取り組みたい。</p> <p>3. 施設・設備</p> <p>・生徒用机椅子のリプレイス、東門・南門からのスロープの塗装</p>	<p>1. 生徒たちのこころと身体の発達のため、必要な健康診断やカウンセリングを実施いただいていると理解しています。</p> <p>2. 災害はいつ起きるか分からないので、学校においても常に準備を講じていただいていると理解しています。</p>
5	<p>連携 (保護者、卒業生、地</p> <p>1. PTA</p> <p>PTA活動に関わる委員と教員の負担軽減について検討、実施した。現在の保護者の要</p>	<p>1. PTAとしても、学校と生徒のために協力</p>

	域等)	望や新しい発想も取り入れ、保護者が自主的、積極的に参加できる内容や形態になるようサポートした。 2.卒業生 2022年度創設された同窓会奨学金を運用した。 【最重要課題】 *持続可能なPTAのあり方を検討	を惜しません。様々なご家庭がある中で、それぞれの意見や意思を尊重し、無理のない運営、学校との連携を目指しています。
6	大学との連携	1.高大連携の取り組み ・総長杯英語プレゼンテーション大会、学部聴講制度の利用、高2対象ウェルカムフェス夕、多摩キャン体験、ワンドーサイエンスカレッジ、English Campには多くの生徒の参加があった。 ・法政大学理系学部の学部長らと、付属校生の理数科目の能力向上についての懇談会を実施した。 ・大学構内で学校説明会を実施し、その後に学生によるキャンパス見学を実施した。 2.法大推薦について 毎年6月頃出される「総長文書」を十分確認し、生徒保護者に確実に周知し進めることが重要である。今年度も滞りなく実施したが、前年や例年と学部学科の条件等変更になる場合もあるため、上記文書を丁寧に確認し進めている。 しかし、今年度は、航空操縦専修の募集に関して、法人より募集停止の公表があり、重要事項の伝達の時期として遅すぎるものであった。将来の進路についてどのように指導していくか、各校の進路指導担当者と相談しつつ、管理職・法人が個別面談を行い丁寧に対応した。 3.教育実習生の受け入れと大学との連携 5月下旬～6月初旬に3週間の実習を行い、法政大学教職担当者とまとめの会を行った。 4.キャリア形成ほか ・法政大学長期ビジョン「HOSEI2030」に三付属校教員のキャリア形成の観点から研修の一環としての人事異動について触れている。2024年度の異動者はいなかった。	1～4. 付属校ですので、生徒が付属校生であることの自覚とメリットを感じられるよう、引き続き様々な取り組みを検討いただくことを願います。

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価 実施日 2025年11月25日	
		年 度 目 標		年 度 評 価			
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策		
1	三者協議会	今年度は「校内におけるスマートフォンのカメラ機能使用の是非」と「法政での学びで育みたいもの」について積極的な意見交換が行われた。前者に関しては生徒側の要望と、保護者・教員側の懸念点が表明され、今後の合意形成へ向けてのよい話し合いの機会となった。後者に関しては中学生徒会執行部のメンバーも含め、それぞれの立場からの建設的な意見や感想が述べられ、引き続き話し合いを行っていくことが確認された。 1月11日(土)(参加:生徒12名・保護者10名・教職員12名・その他24名)。 (1)校内におけるスマートフォンの利用について 2024年度途中から、高校生の授業時間以外でのスマートフォンの使用が認められるようになった。引き続き、利用方法等については改善を促しつつ、生徒たちの自律的なICTツールの活用に寄与するように工夫していきたい。 (2)法政の学びで育みたいものとは 生徒や保護者からたくさんの声が上げられ、多くの思いがあることがわかった。必要に応じて声を集め(アンケートを取るなど)継続して議論を深めることを確認した。 生徒会部、生活指導部、PTA役員会、保護者など関係諸組織と連携をはかり、教員集団として応答していきたい。				生徒会の皆さんのが熱心な様子に感心しました。PTA側からも議題を提示するなどして、より密に話し合う機会となるよう期待しています。先生方も生徒会の皆さんも忙しいのは承知ですが、年に1回と言わず2～3回実施してもよいのではないかと感じました。	
2	教育理念	「三者協議会」の取り組みを経て理念の浸透を図りたい。 「学びのつながり」をガイド等で活用した。実践を共有し浸透させたい。				引き続き、理念の浸透の機会を図っていただきたいと思います。	
3	入試広報	・本校の教育活動を、広く具体的に受験生や保護者に提示できるよう効果的な広報活動を行う。「生徒の様子」が観たいという受験生保護者のニーズは強い。オープンキャンパスでは「生徒による学校案内」企画を実施した。好評であり次年度も継続したい。 ・校内での説明会の際、生徒保護者が本校での生活について言及する機会を持った。生徒や保護者の声を対外的に聞いてもらう機会として有効だった。				生徒の声を聞くことで学校生活をより理解できる良い企画だと思います。	

4	地域	<p>・シルバー人材の交通指導員に指導を依頼した。中高での時差登校や朝の HR の廃止などで、朝の通学路の混雑は緩和されるようになった。</p> <p>・年度初めのマナー指導を充実させ、生徒も近隣の住民も安全に通行できるよう解決策を探っていきたい。定期試験期間の下校時は、学年間で時差下校を行った。混雑解消に有効であるため継続する。</p> <p>【最重要課題】</p> <p>*登下校時(徒歩・自転車)の危険回避に関する具体策検討</p>	通学に関するマナー指導の時間を増やし、生徒たちの意識が改善されるよう、継続指導を期待します。
5	不登校の保護者の集い	<p>・不登校生徒を持つ家庭への支援</p> <p>「学校に行きづらい・休みがち・不登校の子の保護者の集い」を 2 回開催し、延べ 57 名(保護者 30 名、その他 27 名)の参加があった。今後も継続して開催して欲しいとの声を複数頂いた。</p>	様々な事情で通常登校が難しい生徒やその保護者への支援を引き続きお願い致します。
6	学食	オープンキャンパスでの来校者の「スクールランチ体験」に加え、鈴掛祭でも開放し、多くの来校者に利用してもらうことができた。	メニューに特色を持たせ、生徒だけでなく保護者も利用しやすい工夫を検討いただけると嬉しいです。